施策マネジメントシート(平成29年度の振り返り、総括)

作成日 平成 30 年 7 月 4 日

基本目標	I	誰もが安心して安全でゆとりを感じるまち	主管課	名称 農政課 課長 松井田 順一
施策	13	獣害対策の推進	関係課	

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
	①町民	①鳥獣による被害にあわない。	基本事業	1 鳥獣が出没しにくい環境整備	町民
		2 農林産物被害の軽減		農家	鳥獣による農林産物の被害を軽減できる。
		3 人的被害対策の推進		町民	鳥獣による人身被害にあわない。
		4			
		5			

成果指標	成果指標名		単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	A	鳥獣による農林産物被害金額	千円	実績値	10,888	7,171	7,074	7,296	6,875	7,455	7,221
			目標値		10,500	10,000	9,500	9,000	8,500	8,000	
B	鳥獣による農林産物被害面積	ha	実績値	13.71	9.80	9.10	8.92	8.52	8.96	8.49	
			目標値		13.5	13.0	12.5	12.0	11.5	11.0	
C	獣による人的被害者数	件	実績値	1	1	0	2	1	2	1	
			目標値		0	0	0	0	0	0	
D	獣の目撃件数	件	実績値	94	116	117	123	115	150	120	
			目標値		120	110	100	90	80	70	
E			実績値								
			目標値								
F			実績値								
			目標値								

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 被害金額が減少すれば対策の効果が現れていると言えるため成果指標とした。また、数値は県で公表しているため他団体との比較も可能となる。
 B) 被害面積が減少すれば対策の効果が現れていると言えるため成果指標とした。また、数値は県で公表しているため他団体との比較も可能となる。
 C) 獣による事故がなければ安全が確保されていると言えるため成果指標とした。
 D) 獣の目撃情報の通報が少なくなれば対策の効果が現れていると言えるため成果指標とした。

目標値設定の考え方

A、B) 平成23年度から獣害対策センターを設置し、電柵の設置や緩衝帯の整備、パトロールや個体数管理などに取り組んでおり、現在の体制を継続することにより、被害額・被害面積の増加を抑制する。また、行政が中心となって行っている獣害対策について、今後、地域住民を巻き込んだ追い払い等の対策を推進することで、平成29年度の被害額を8,000千円以下に抑制する。
 (農林産物被害金額H27=沼田市:13,832千円、片品村:3,574千円、川場村:1,102千円、昭和村:7,813千円、みなかみ町6,875千円)
 C) 平成23、24、26、27年度、それぞれ人身事故が発生しているが、町民の安全を確保するため事故発生件数0を目指す。
 D) 平成23から24年度にかけて、また28年度において目撃情報数が増加したが、120件程度で推移すると考える。
 行政と地域が一体となった対策を講ずることで、通報件数の減少が図れると考えられることから、平成29年度通報件数を90件までに抑制する。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①未収穫農産物や野菜くず等を農地に放棄しない。 ②出没した鳥獣の追い払いを行う。 ③農地の荒廃化を防ぎ、集落に隣接する林野の刈り払いを行うなど、獣が出没しにくい環境を整備する。	①獣が出没しにくい環境を整備するための支援を行う。 ②鳥獣の個体数調整を行う。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①鳥獣保護法が改正され「管理(生息数や生息地を適正な水準まで減少させる)」が加えられ以前より駆除等に取り組みやすくなった。一例として一定の条件のもと捕獲業務を民間事業者へ委託することや、夜間の銃器駆除も可能になった。 ②平成27年5月に県の管理計画(シカ、イノシシ、サル、カワウほか)され新たな目標値が示された。基本的には個体数を減少させ被害額の軽減に努めることであるが、サルについては群れの数を80群から50群(平成15年度水準)としており、広域による取組が求められることから、県による積極的な取組を期待している。 ③イノシシやクマ、サル等の市街地への出没が確認されており、獣害対策は中山間地域の課題では済まなくなっている。 ④近隣市町村の追い払い強化により、町内に逃げ込んでくる可能性がある。 ⑤平成26年4月より緑の県民税(森林環境税)が導入され、森林整備に取り組んでいる。	①獣害対策を行わなくても農業が営めるような環境を取り戻してほしいとの期待がある。 ②有害鳥獣の駆除を可能なかぎりしていただきたい。 ③獣害パトロールによる成果が見えにくい。 ④捕獲した個体の焼却処理施設の設置。

施策	13	獣害対策の推進	主管課	名称 農政課 課長 松井田 順一
----	----	---------	-----	---------------------

	実績比較	背景・要因																		
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	①時系列比較 ☐ かなり向上した。 ☐ どちらかといえば向上した。 ☒ ほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ どちらかといえば低下した。 ☐ かなり低下した。	①侵入防止柵(電牧柵)の設置について獣害センター設置前は年間10~20kmの事業量であったが、センターが設置された平成23年度に50.8km、平成24年度20km、平成25年度8km、平成26年度8.9km、平成27年度2.0km、平成28年度8.7km、平成29年度8.2kmの整備により平成29年度末で累計165.2kmの整備を行った。 ②地域での追い払い活動を推進するため、町から追い払い用煙火を支給している。平成23年度765個、平成24年度1,057個、平成25年度3,523個、平成26年度5,130個、平成27年度3,858個、平成28年度4,927個、平成29年度3,266個が使用され地域ぐるみの取り組みが行われるようになったと考えられる。 ③人的被害について、平成23年度の1件は人家周辺へ出没したイノシシが除雪作業中の町民に被害を与えたケース、平成24年度の1件は山菜採取中、クマに襲われたケースであるため状況は異なる。平成25年度事故0件、平成26年度人身事故2件、物損事故1件、平成27年度人身事故1件が発生。平成28年度は狩猟関係の事故は0件であったが、平成29年度人身事故1件発生した。 ④目撃情報について、平成23年度は94件、平成24年度は116件、平成25年度117件、平成26年度123件、平成27年度115件とほぼ同数で推移しているが、平成28年度150件、平成29年度120件と多くの情報が寄せられている。 ⑤被害面積が8~9ha(同レベル)であるが、被害額の増加年度は、単価の高い果樹被害が増えたと考えられる。																		
	②他団体との比較 ☐ かなり高い水準である。 ☒ どちらかといえば高い水準である。 ☐ ほぼ同水準である。 ☐ どちらかといえば低い水準である。 ☐ かなり低い水準である。	①管内の市町村で基金の創設や獣害センターを設けて対策に当たっている市町村は存在しないため、先進的な取り組みと評価する。 ②平成28年度における管内のデータ ※()は平成27・26・25年度の順 <table border="1"> <thead> <tr> <th>市町村名</th> <th>被害面積 (ha)</th> <th>被害金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>沼田市</td> <td>9.53 (8.79・12.28・114.76)</td> <td>10,390 (13,832・16,539・13,843)</td> </tr> <tr> <td>片品村</td> <td>7.08 (7.06・7.73・6.75)</td> <td>3,547 (3,574・3,578・2,903)</td> </tr> <tr> <td>川場村</td> <td>0.41 (0.65・0.65・0.31)</td> <td>1,017 (1,102・1,573・1,849)</td> </tr> <tr> <td>昭和村</td> <td>6.20 (5.99・5.82・4.24)</td> <td>7,224 (7,813・7,227・6,130)</td> </tr> <tr> <td>みなかみ町</td> <td>8.96 (8.52・8.92・9.10)</td> <td>7,455 (6,875・7,296・7,074)</td> </tr> </tbody> </table>	市町村名	被害面積 (ha)	被害金額 (千円)	沼田市	9.53 (8.79・12.28・114.76)	10,390 (13,832・16,539・13,843)	片品村	7.08 (7.06・7.73・6.75)	3,547 (3,574・3,578・2,903)	川場村	0.41 (0.65・0.65・0.31)	1,017 (1,102・1,573・1,849)	昭和村	6.20 (5.99・5.82・4.24)	7,224 (7,813・7,227・6,130)	みなかみ町	8.96 (8.52・8.92・9.10)	7,455 (6,875・7,296・7,074)
	市町村名	被害面積 (ha)	被害金額 (千円)																	
沼田市	9.53 (8.79・12.28・114.76)	10,390 (13,832・16,539・13,843)																		
片品村	7.08 (7.06・7.73・6.75)	3,547 (3,574・3,578・2,903)																		
川場村	0.41 (0.65・0.65・0.31)	1,017 (1,102・1,573・1,849)																		
昭和村	6.20 (5.99・5.82・4.24)	7,224 (7,813・7,227・6,130)																		
みなかみ町	8.96 (8.52・8.92・9.10)	7,455 (6,875・7,296・7,074)																		
③目標の達成状況 ☐ 目標値を大きく上回った。 ☐ 目標値を多少上回った。 ☒ ほぼ目標値どおりの成果であった。 ☐ 目標値を多少下回った。 ☐ 目標値を大きく下回った。	①被害金額・面積ともに目標を上回った。 ②平成25年度の事故は0件であったが、平成26年度は人身事故2件、物損事故1件。平成27年度は人身事故1件が発生した。定期的な銃器使用の講習会を開催する必要があると考える。平成28年度は入山者の熊との遭遇による人身事故が2件であった。平成29年度も入山者クマとの遭遇による事故が1件発生した。 ③目撃情報は全町的に情報が多い。クマやニホンザルの出没が多くなっていると思われる。																			
成果実績の総括	<獣が出没しにくい環境整備> ①緩衝帯(森林整備)は、平成26年度4地区・13.4ha及び林縁部刈り払い支援(ボランティア支援)9kmを実施。平成27年度は林縁部刈り払いで2.0kmを実施。(H28以降移管) ②追い払い用煙火の講習会を、地域住民自らが追い払い活動に取り組めるよう講習会を月夜野、水上、新治の3会場で実施した(H29受講者181名・うち新規18名、H28受講者178名・うち新規25名、H27年は174名・うち新規29名)新規受講者は町で受講料の支援措置を講じた。 ③臨時職員により3班体制で町内パトロールを実施した。 <農林産物被害の軽減> ①平成29年度6地区・8.2kmの侵入防止柵(電牧柵)の設置を行った。 ②平成24年10月より鳥獣被害対策実施隊を組織しニホンザル駆除活動を実施した。平成28年度に捕獲許可を受けて駆除を行った有害鳥獣数【H29(H28・H27・H26)】は、ツキノワグマ12(30・3・23)頭、ニホンザル136(198・136・209)頭、イノシシ202(390・180・319)頭、カラス5(1・6・11)羽、ハクビシン291(266・213・148)頭、ニホンジカ144(215・51・142)頭の計790(1,100・590・852)頭となり、前年比310頭減になった。1年ごとに増加減少の波が見受けられる。平成29年度は捕獲奨励金は前年より減少している。 ③湯原地区においてニホンザル適正管理計画策定を進めようとしているが、群れの調査に必要な発信機を装着できる個体の捕獲がままならないため計画策定が遅延している。 <人的被害対策の推進> ①目撃情報を受け、現場見回り、防災メール発信、パトロール車による広報周知や、教育委員会より小中学校へ情報提供を行うとともに看板等を設置。翌日には目撃情報が多くの通学路をパトロールを行っている。 ②猟友会各支部ごとに銃器取り扱いに関する安全講習会を開催しており、例年月夜野支部2回、新治支部3回、水上支部2回実施している。																			

	基本事業名	今後の課題	今後の取り組み(案)
今後の課題と取り組み(案)	1 鳥獣が出没しにくい環境整備	森林整備が実施された後の管理がなされないため、効果が十分発揮されない地区も存在することから地域での刈り払い活動の継続が必要である。	森林整備を持続するため「緑の県民税」等を活用し、住民が参加する持続的な活動を促す。
	2 農林産物被害の軽減	①侵入防止柵の整備を推進しているが、補助対象となる区域設定が難しい農地が残ってしまったため、町単独事業としての支援が求められている。近年、出没鳥獣が変化し既存の施設では対応が難しくなっている。 ②地域活動による追い払いの強化。 ③実施隊(猟友会)の高齢化と人員の減少。	①町農林業振興事業補助金交付要綱を見直し、侵入防止柵設置者(生産者)への支援を検討する。 ②地域活動として追い払いに取り組めるよう、駆逐煙火の講習会開催・支給支援を継続するとともに、獣害対策に関する講習会等を開催する。 ③安全講習会の継続開催により銃器使用者への啓発に努めるとともに、有害鳥獣捕獲のため狩猟者登録等の支援を行う。
	3 人的被害対策の推進	①人的被害は、狩猟期以外の山菜・キノコ採り等において発生するツキノワグマの加害ケースが多く、被害に遭わないための周知が課題となっている。 ②ニホンザルの市街地への出没や通学路での目撃は続いており、住民や観光客などに配慮した対策を講ずる必要がある。	①登山道等への周知看板設置の継続的な取り組み。 ②有害鳥獣のパトロールに取り組むとともに、出没情報を防災メールや広報車等で周知し、町民等(農業従事者を含む)が対策を講じやすいよう情報提供を行う。

13_獣害対策の推進

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000001	有害鳥獣情報収集・管理事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	6,880,271 円			
施策体系	施策	13	獣害対策の推進		有害鳥獣の出没及び被害状況の情報を収集し、農林産物等の被害低減に役立てる。また、猿追跡用発信器取付に係る、麻薬使用許可の申請及び捕獲野猿麻酔用薬剤購入、野猿追跡調査員の選定、指導、委託契約事務。		事業実績		追跡調査員数			
	基本事業	01	鳥獣が出没しにくい環境整備									
根拠	無	組織	農政課	課長	田村 雅仁	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		平成28年度 平成29年度 単位		
事業期間	継続事業	会計	1	款	6					項	2	目

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000003	鳥獣被害対策実施隊運営事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	2,476,230 円			
施策体系	施策	13	獣害対策の推進		鳥獣被害対策実施隊を編成し対象鳥獣(ニホンザル)の追い払い及び捕獲を行う		事業実績		ニホンザル捕獲数			
	基本事業	01	鳥獣が出没しにくい環境整備									
根拠	有	組織	農政課	課長	田村 雅仁	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		平成28年度 平成29年度 単位		
事業期間	継続事業	会計	1	款	6					項	2	目

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000004	鳥獣被害防止パトロール事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	204,726 円			
施策体系	施策	13	獣害対策の推進		臨時職員としてパトロール隊員を雇用して、捕獲オリの設置・見回り・捕獲・処分を実施する他、有害鳥獣の追い払いパトロールを実施する。		事業実績		有害鳥獣の捕獲数			
	基本事業	01	鳥獣が出没しにくい環境整備									
根拠	無	組織	農政課	課長	田村 雅仁	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		平成28年度 平成29年度 単位		
事業期間	継続事業	会計	1	款	6					項	2	目

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000001	有害鳥獣捕獲奨励金交付事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	5,367,999 円			
施策体系	施策	13	獣害対策の推進		イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ハクビシン、アライグマの捕獲及び処分することにより奨励金を交付する。		事業実績		奨励金支払件数			
	基本事業	02	農林産物被害の軽減									
根拠	有	組織	農政課	課長	田村 雅仁	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		平成28年度 平成29年度 単位		
事業期間	継続事業	会計	1	款	6					項	2	目

13_獣害対策の推進

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000003	困いワナ・捕獲おり貸出事業		① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	80,108 円						
施策体系	施策	13	獣害対策の推進	困いワナ・捕獲おり等の有害鳥獣の捕獲用具を購入し必要に応じて貸し出しを行う。		事業実績							
	基本事業	02	農林産物被害の軽減			貸し出し件数 (ハクビシン檻+イノシシ檻+ククリワナ)							
根拠	有	組織	農政課 獣害対策センター G	課長	田村 雅仁	平成28年度 平成29年度 単位							
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	6	項	2	目	2	1,075	1,075	件

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000004	有害鳥獣追い払い事業		① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	635,013 円						
施策体系	施策	13	獣害対策の推進	有害鳥獣の農作物等被害を軽減するため、追い払いの資材(轟音玉、駆除雷3連発等)を購入し、農業者等追い払いを実施する方に交付する。	多くの人に動物駆逐用煙火を使用してもらうために、新規資格取得の費用を町が負担した。	事業実績							
	基本事業	02	農林産物被害の軽減			資材(轟音玉、駆除雷3連発等)交付件数							
根拠	無	組織	農政課 獣害対策センター G	課長	田村 雅仁	平成28年度 平成29年度 単位							
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	6	項	2	目	2	4,927	3,266	本個

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000005	猟友会活動支援事業		① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	2,520,750 円						
施策体系	施策	13	獣害対策の推進	利根沼田猟友会月夜野支部、水上支部、新治支部の運営全般に渡る事務を行う。	狩猟者登録の費用の一部を町が負担した。	事業実績							
	基本事業	02	農林産物被害の軽減			猟友会員数							
根拠	無	組織	農政課 獣害対策センター G	課長	田村 雅仁	平成28年度 平成29年度 単位							
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	6	項	2	目	2	111	103	人